

# 行政視察報告書

令和7年 7月 31日

長浜市議会議長 高山 亨様

長浜市議会議員 岩川信子

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

## 記

1. 視察等名 令和7年度恵風会会派行政視察研修
2. 視察期間 令和7年7月14日(月)～7月16日(木)
3. 視察場所及び目的
  - ①小樽(北海道小樽市)「ライトアップによる観光地の魅力化について」
  - ②北海道がんセンター(北海道札幌市)「がん治療について」
  - ③函館市縄文文化交流センター(函館市)「博物館の展示と運営について」
  - ④函館市役所(北海道函館市)「これからの観光について」
4. 調査内容感想等

### ・視察の目的

① 小樽(北海道小樽市)「ライトアップによる観光地の魅力化について」  
長浜市においても、歴史的街並みや観光施設の夜間活用による交流人口の拡大が  
求められている。小樽市のライトアップ施策や演出手法、地元事業者・市民との連携  
体制、費用対効果の検証方法を学び、長浜市での夜間観光コンテンツ強化や観光消  
費拡大の参考とする。

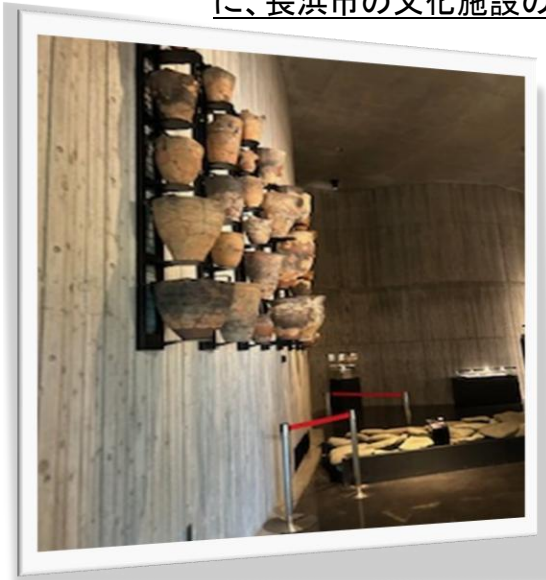


② 北海道がんセンター(北海道札幌市)「がん治療について」

長浜市民の健康寿命延伸と医療環境の向上に向け、最新のがん治療の取組、診療体制、患者支援や地域連携の仕組みを把握する。特に予防・早期発見から治療、在宅療養までの包括的な医療モデルを学び、地域医療計画やがん検診受診率向上策の検討に活かす。

③ 函館市縄文文化交流センター(函館市)「博物館の展示と運営について」

長浜市の歴史・文化資源を活かした観光振興・教育活動の推進に向け、函館市の縄文文化をテーマとした展示手法や来館者体験型プログラム、収蔵品管理、指定文化財の活用策を学ぶ。併せて、地域住民の参画や広報戦略、運営体制の工夫を参考に、長浜市の文化施設の魅力向上につなげる。



特に、長浜市における小谷城戦国歴史資料館や北の資料館は、いずれも市街地から離れた立地やアクセス面での課題を抱えており、集客の工夫が不可欠である。本視察を通じて、立地条件に制約がある施設でも来館者の興味を惹きつけ、継続的に足を運んでもらえる展示企画や体験プログラムのあり方を探る。

④ 函館市役所(北海道函館市)「これからの観光について」

人口減少・旅行形態の多様化に対応した観光戦略の策定にあたり、函館市の観光振興計画や新たなターゲット層の開拓、地域資源の磨き上げとブランド化の事例を学ぶ。特に長浜市の観光資源と共通性のある歴史的街並みや港町文化の活用手法について、行政・民間連携の取組を参考にする。

・調査内容感想等

① 小樽(北海道小樽市)「ライトアップによる観光地の魅力化について」

・視察内容

私が約 25 年前に家族で訪れた際の印象と比較すると、観光施設周辺の町並みは大きく様変わりしており、その発展ぶりに驚かされました。かつては一部エリアのみの観光拠点であったが、現在では運河周辺を中心に歴史的建造物の保存・再活用が進み、飲食・物販・宿泊施設が一体的に整備されている。特に夜間のライトアップは景観に調和しつつも華やかで、昼間とは異なる魅力を創出しており、観光客の回遊や滞在時間延長に大きく寄与していることが確認できた。地元事業者との連携によるイベントや季節ごとの演出など、長浜市の歴史的街並み活用においても参考となる事例であった。

・感想

小樽市で見た、歴史的景観を活かしたライトアップと町並み整備の取組は、長浜市にとっても大きな参考となり、黒壁スクエアや長浜城周辺、北国街道沿いといった歴史的エリアにおいて、景観に調和する光の演出を施すことで、昼間とは異なる魅力を創出できる。



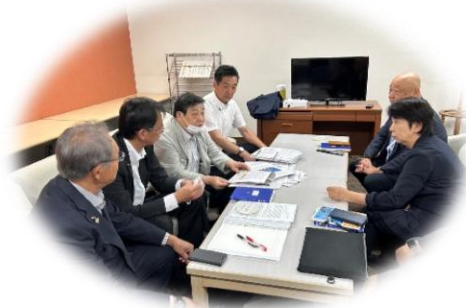
これにより、夜間の回遊性と滞在時間が向上し、飲食や宿泊など地域経済への波及効果が期待される化と思う。また、季節ごとのテーマ設定やイベントとの連動、地元事業者や市民との協働により、持続可能で魅力的な観光空間として定着させることが可能であると考えます。

## ② 北海道がんセンター(北海道札幌市)「がん治療について

### ・ 視察内容

最新のがん治療設備(放射線治療装置、内視鏡手術支援機器等)、多職種によるチーム医療体制、患者や家族への心理的支援、地域医療機関との連携システムについて説明を受けた。予防・早期発見に向けた市民啓発活動や、検診から治療、緩和ケアまで一貫して提供される医療体制を見学した。

また、以前、同僚議員が同センターの名誉会長でもある放射線医師・西尾正道氏による舌がんの「切らない治療」を受けた際の話を知ったことがあり、外科手術に頼らず患者の生活の質を保ちながら治療する重要性を、今回の視察内容とも重ねて再認識した。加えて、放射線治療のほか、陽子線治療や重粒子線治療といった先進的ながん治療法についても改めて説明を受けた。これらは正常組織への負担を抑えながら高精度で腫瘍を狙える利点がある一方、まだ保険適用外のケースが多く、患者負担や導入施設の限られた現状など、課題についても学ぶことができた。



### ・感想

最新の医療機器と高度な医療体制の整備はもとより、患者の生活の質(QOL)を重視する姿勢が強く印象に残った。特に、多くの権威ある資格と役職をお持ちの放射線医師・西尾正道氏による舌がんの「切らない治療」を同僚議員が受けた事例とも重なり、外科手術以外の治療選択肢がもたらす価値を改めて実感した。また、先進医療の持つ利点と、依然として残る保険適用の制約についての説明は、市民に正確な情報を提供し、適切な医療選択を促す必要性を再認識させられた。

今回の視察を通じ、最新の治療設備、多職種によるチーム医療、患者・家族への支援、そして地域医療機関との連携体制が、質の高いがん医療の基盤であることを確認できた。長浜市立病院にも、高精度放射線治療装置リニアックをはじめとする優れた治療機器が整備されており、これらを最大限に活用することが求められる。

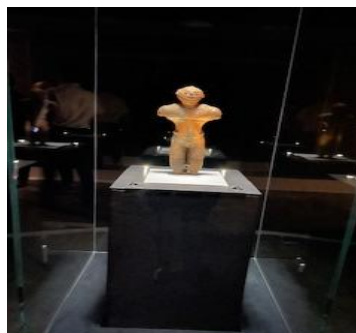
特に、人間ドックや各種がん検診を通じた早期発見・早期治療の推進は、患者の負担軽減と治療効果の向上に直結する。今回得た陽子線治療や重粒子線治療に関する知見も、市民への啓発活動に活かし、治療の選択肢を広げる情報提供を行うべきである。今後は、市立病院と地域の医療機関が一層緊密に連携し、検診から治療、緩和ケアまで切れ目のない体制を構築することで、市民が安心して暮らせる「健康都市・長浜」の実現を目指していきたいと思う。

### ③ 函館市縄文文化交流センター(函館市)「博物館の展示と運営について」

#### ・視察内容

函館市縄文文化交流センターは、2021年に「北海道・北東北の縄文遺跡群」として世界文化遺産に登録された垣ノ島遺跡のガイダンス施設として整備されている。館内では、国宝「中空土偶」をはじめとする貴重な縄文時代の出土品を、温湿度管理や照明条件を厳密に整えた環境で保存・展示している。展示は、実物資料に加え、精巧な復元模型、映像、インタラクティブな解説パネルを組み合わせ、来館者が歴史的背景や文化的価値を直感的に理解できる構成となっていた。

さらに、勾玉づくりや縄文食の再現などの体験型プログラム、学校との教育連携、地域ボランティアによる解説など、市民参画型の運営が特徴的である。施設は市中心部から離れた場所にありアクセス面では不利な立地条件であるものの、世界文化遺産登録を契機に知名度が大きく向上し、来館者数は登録前よりも明らかに増加。SNSや観光サイト、周辺観光地との連携による広報戦略も功を奏し、安定した集客を実現していた。

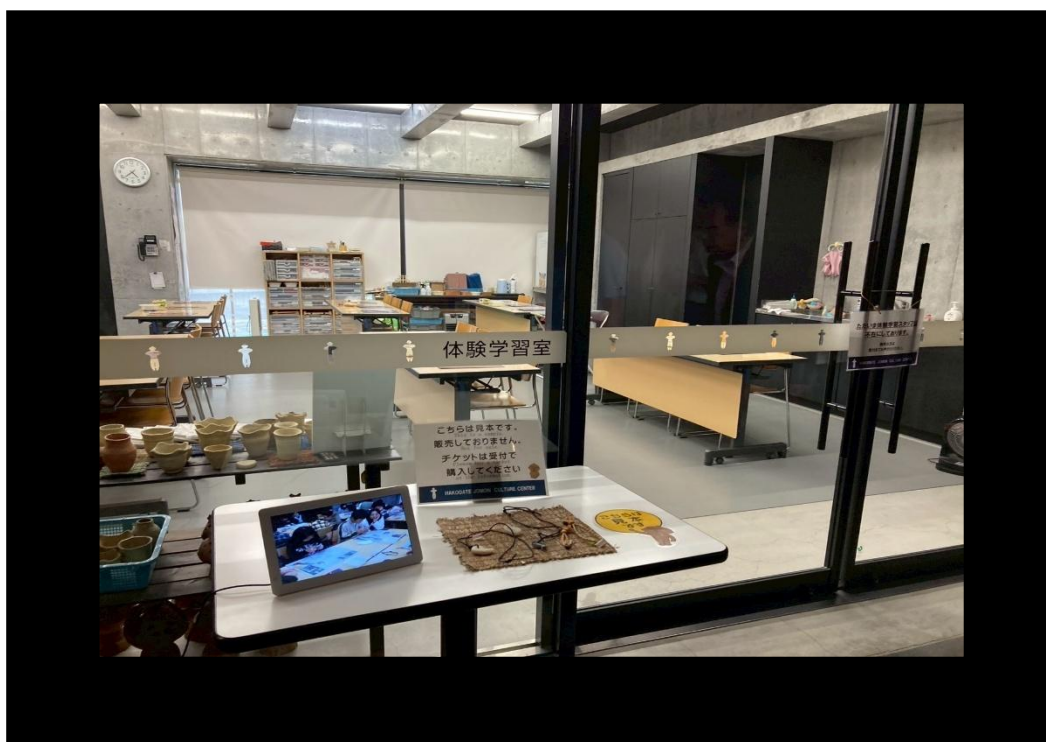


・感想

世界文化遺産というブランドを背景に、展示・運営の質を高めつつ、市民参加と来館者体験を両立させている点が印象的であった。展示は単なる鑑賞にとどまらず、訪れた人が文化の担い手として意識を高められるよう設計されており、文化資源を現代的に活かす好例といえる。また、立地条件の不利を情報発信や観光ルート工夫で克服している点は、長浜市の文化施設運営にも大きな示唆を与えるものであった。

長浜市には、無形文化財である長浜曳山まつりや富田人形といった全国的にも貴重な伝統文化があり、小谷資料館や北の資料館といった歴史資料を保管・展示する施設も存在する。しかし、これらはアクセス面で必ずしも恵まれておらず、来館者数や市外への情報発信に課題がある。今回の視察から、世界文化遺産のような強い文化的ブランドがなくとも、来館者参加型の展示や地域連携型イベント、SNS や観光動線と一体化した広報を行うことで、立地の弱点を補い集客力を高められることを学んだ。

長浜市でも、曳山や富田人形をテーマとした体験型展示やワークショップの充実、学校教育との連携、市民による解説活動などを進めることで、地域文化の魅力をより広く発信していくべきである。



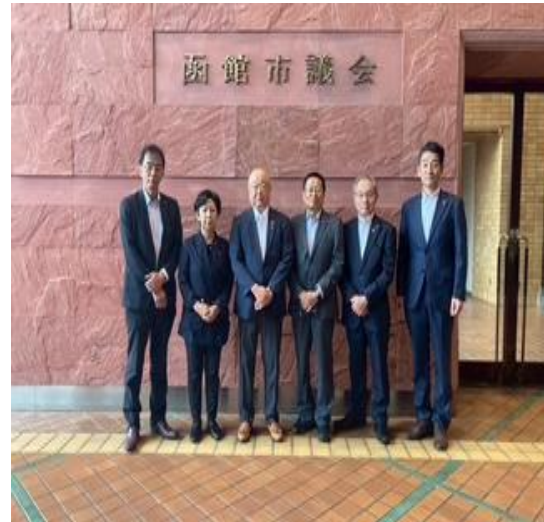
#### ④ 函館市役所(北海道函館市)「これからの観光について」

---

##### ・視察内容

---

函館市役所観光部門より、近年の観光動向と今後の施策について説明を受けた。函館市は、夜景・異国情緒あふれる街並み・新鮮な海産物といった従来の観光資源に加え、クルーズ船寄港の増加や北海道新幹線開業による来訪者層の拡大を背景に、国内外からの観光客数が回復傾向にあるとのことだった。さらに、コロナ禍で変化した旅行ニーズに対応するため、滞在型観光や体験型コンテンツ(歴史的建造物のナイトツアー、地元食材を使った料理教室など)を強化している。



また、外国人観光客への対応として、多言語案内やキャッシュレス決済環境の整備、SNSや動画配信を活用したプロモーションにも注力。観光資源の保全と地域経済活性化を両立させる「持続可能な観光都市づくり」を基本方針としている。

---

##### ・感想

---

函館市の観光施策を拝見し、伝統的な観光資源に加え、時代の変化に対応した滞在型・体験型観光の充実、多言語対応やキャッシュレス環境の整備など、多角的な取り組みで観光の魅力と利便性を高めている点に深く感銘を受けました。これにより観光客の満足度を高め、持続可能な観光都市の実現を目指す姿勢は、長浜市の観光振興において大いに参考にすべきものと考えます。

---

長浜市においても、長浜曳山祭りや歴史的建造物、豊かな自然といった既存の観光資源を最大限に活用しながら、体験型プログラムの拡充やナイトイベントの企画など、新たな価値創造に努めるべきと考えます。また、外国人観光客を含む多様な来訪者に対応するため、多言語案内やキャッシュレス決済の導入促進を推進することが重要です。さらに、SNSや動画配信といったデジタルツールを活用し、若年層や海外からの誘客強化に注力することが、長浜市の持続可能な観光振興の鍵となります。

今回の視察で得た知見は長浜市の観光施策において貴重な参考資料と位置付け、今後の議会活動や地域振興策の検討に活かしてまいります。



### 視察総括と今後の取り組み

今回の北海道・4か所の視察を通じ、地域資源を活かした観光振興、最先端医療の提供、市民参加型の文化発信など多くの学びを得ました。

小樽のライトアップは夜間観光の魅力向上に役立ち、長浜の曳山祭りなどの活用に参考になります。がんセンターでは、チーム医療や連携体制の重要性を再認識しました。縄文文化交流センターの事例は、体験型展示や情報発信強化の参考となります。函館市役所の観光施策は、多様な来訪者対応や持続可能な観光の方向性を示しています。

これらの知見を活かし、長浜市の観光・医療・文化振興をバランスよく進めてまいります。

